

ワークダイバーシティ

仕事があふれるまち 岐阜

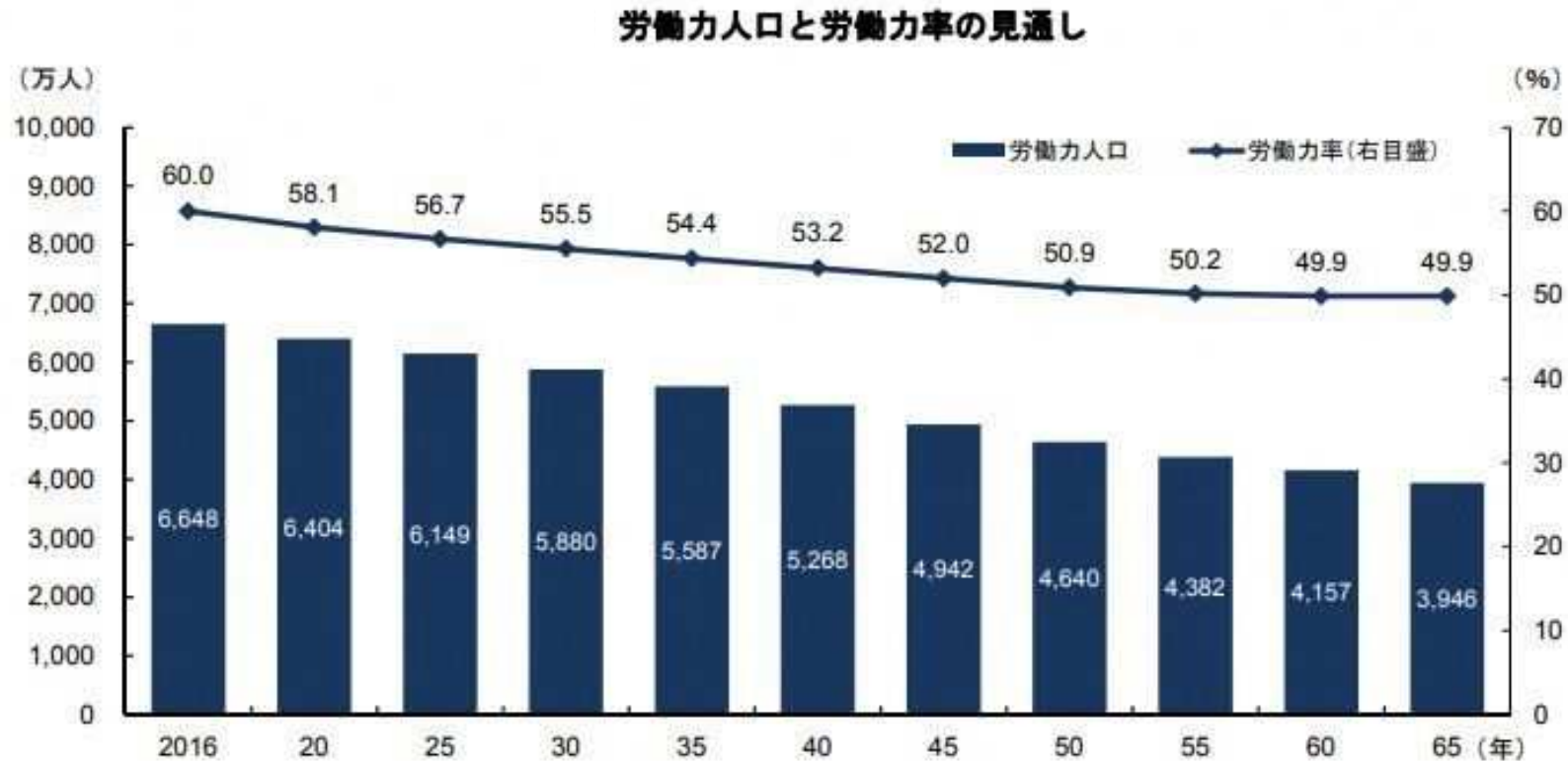


グループ2 メンバー

- ・塚本 満朗 ・林 洋平 ・西尾 知衣允
- ・見廣 篤彦 ・松波 匡宜 (関谷 英久)

1. ワークダイバーシティの背景

深刻な労働力不足



(注) 2016年は実績。2020年以降は、男女別、年齢5歳階級別の労働力率を2016年と同じとして算出（75歳以上は、2016年の75歳以上の労働力率を75～79歳の労働力率とし、80歳以上はゼロとして算出）。

(資料) 総務省「労働力調査年報」（2016年）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（2017年4月推計）より、みずほ総合研究所作成

※出典：みずほ総合研究所

1. ワークダイバーシティの背景

ステークホルダー

求職者

女性

障がい者

ひきこもり
ニート

高齢者

外国人

働きづらさを抱える多様な人々

1500万人

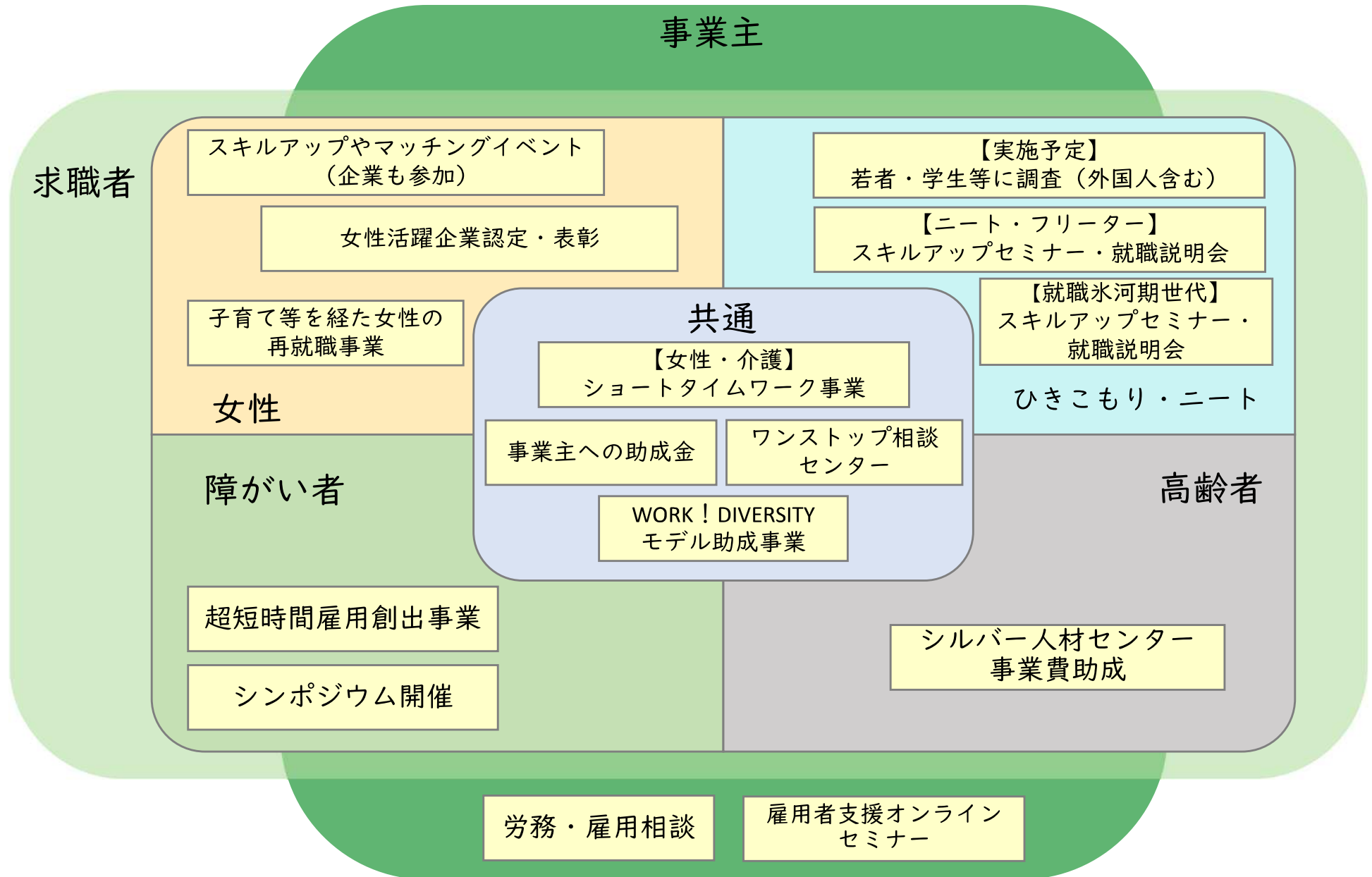
全国のおよそ
1/8人

雇用者

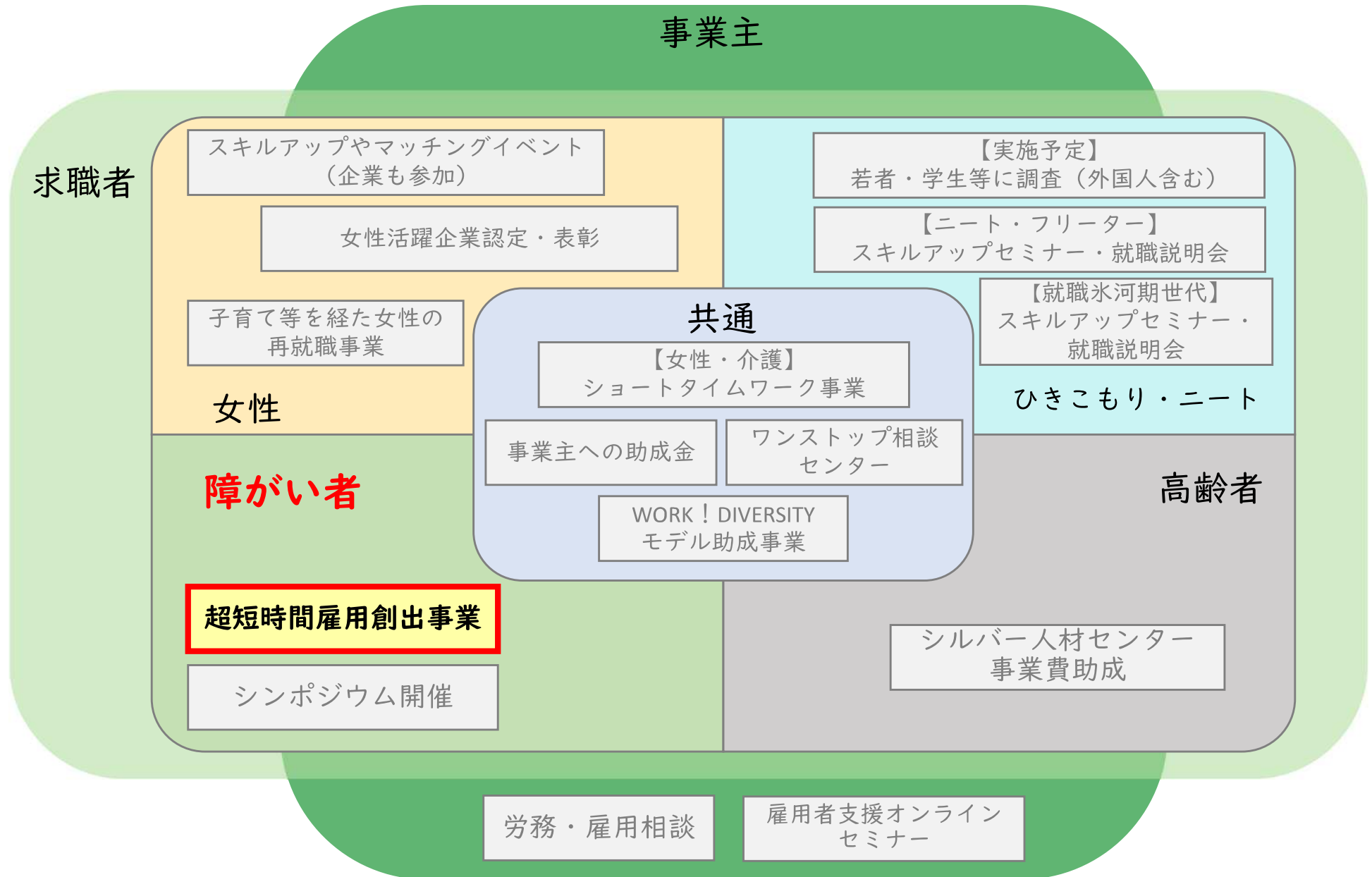
事業主

※出典：日本財団（「WORK!DIVERSITY」プロジェクト運営）

2. 岐阜市の取り組みおよび現状

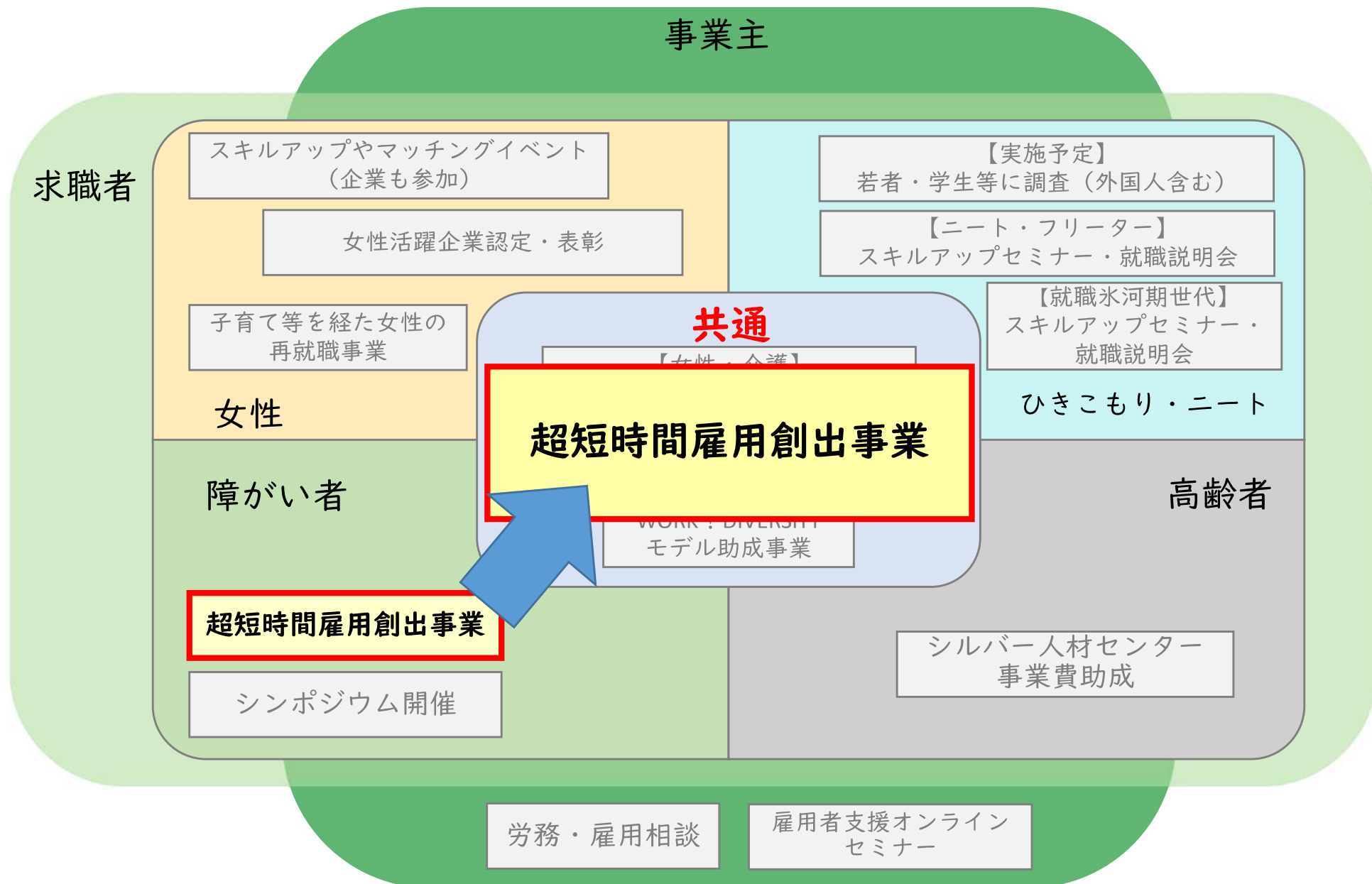


2. 岐阜市の取り組みおよび現状

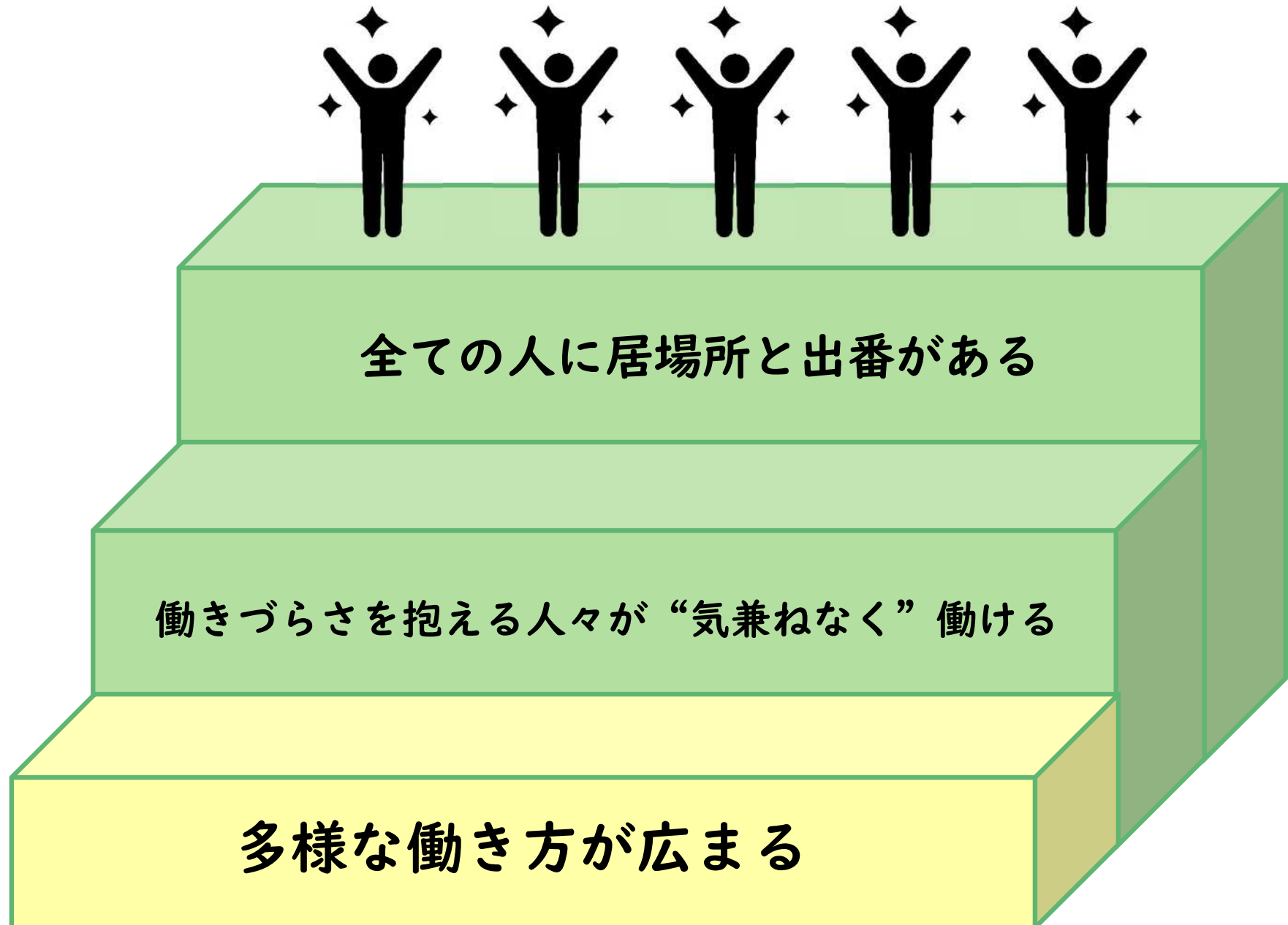


なぜなら・・・

共通の課題解決の可能性



3.理想状態



4.理想状態への課題

多様な働き方を広めるための課題

働きづらさを抱える人々

- ・ 世間一般的な働き方の常識が変わる
- ・ 多様な仕事の選択肢がある
- ・ 柔軟に働ける職場が存在する



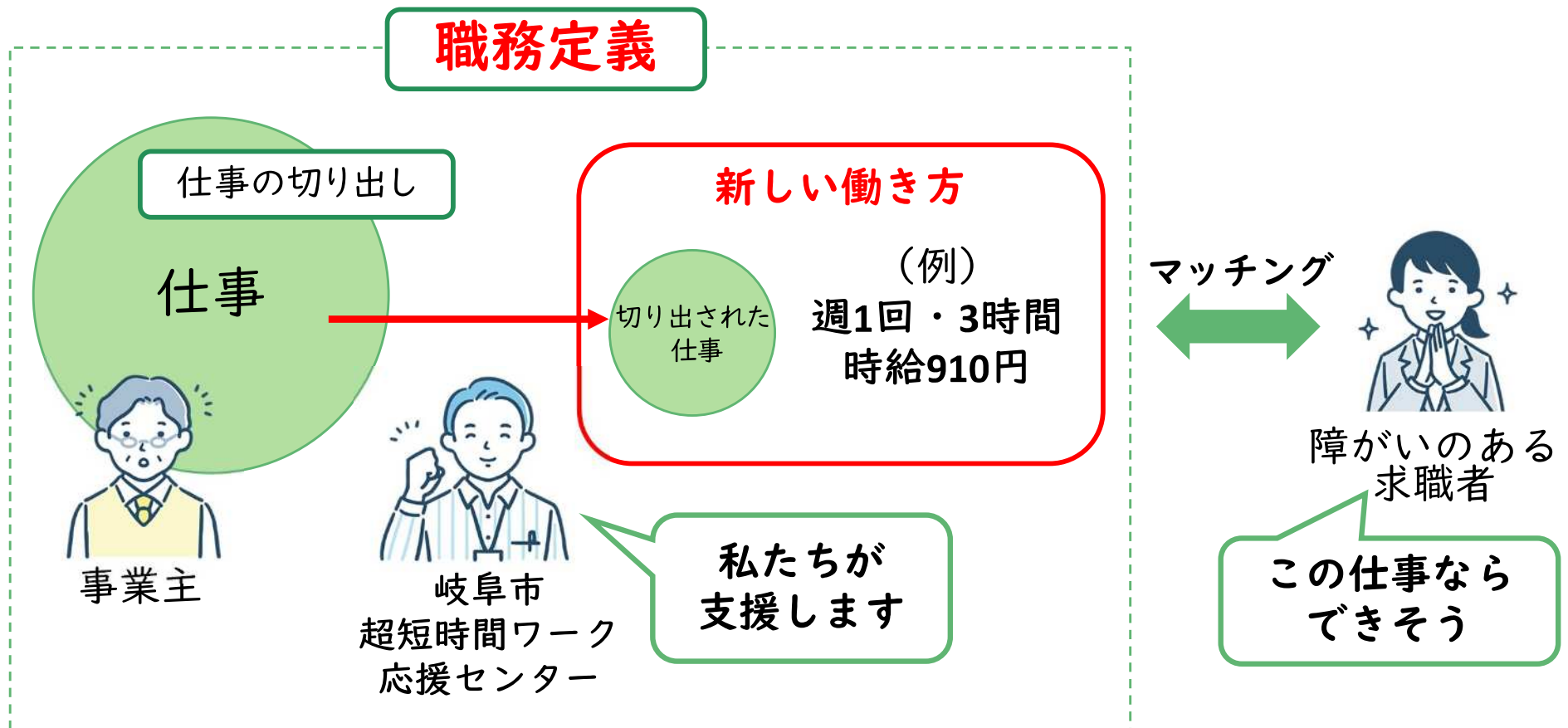
事業主

- ・ 生産性が上がるイメージを持ってもらうための活動が必要



5. 超短時間雇用とは

- ・ 週20時間未満の働き方（障がい者の法定雇用率に算入されない）
- ・ **職務定義**（仕事の切り出し・時間や賃金の設定） ※重要なプロセス



5. 岐阜市の超短時間雇用事例



設計事務所でエクセルの入力作業 <週1回・3時間>

働き手



- ・ **20年ぶり**に働く。
- ・ 別の仕事と迷い、超短時間に賭けた。



- ・ 体験でペースを掴んだ
- ・ 体調の波で効率が変わるが、**週3時間のペースが合う**
- ・ 仕事が詳細に切り分けてあり構われ過ぎなくて良い

- ・ たった3時間で何が出来る？
- ・ **初めての障がい者雇用**に不安



- ・ 手が回らないコト、スタッフのジレンマを認知
- ・ **気合で乗り越えていた業務が和らいだ。**
- ・ 職場の空気が良くなった

雇い手



従来の働き方（朝～夕方までの労働、状況による業務の変化）を
職務定義で切り分け、働きづらさを抱える人たちの介入を実現
⇒新たな雇用創出と企業の生産性が向上

6.超短時間雇用創出事業の現状

岐阜市超短時間ワーク応援センターが4月に開設

⇒企業開拓、ワーカーの登録、両者のマッチング、雇用契約のサポート、就労後の支援に取り組んでいる

<企業アプローチ> (R4.4～R4.8末) ※累計件数

	R4年度
問い合わせ、事前説明	42
職務定義、仕事の切り出し	6
雇用、定着支援	3

→ 法定雇用率に算入されないことで相談が終わる例が多数あり、職務定義のメリットが伝わらない

→ 事業初年度で、まだまだ事例が少ない



初期段階での効果的な対策が必要

7. 担当者の生の声を生かす



川崎市
障害者雇用・
就労推進課

10～15社の事例ができると、超短時間雇用が会社にとっても、仕事を求めている市民にとっても有用と言えるようになる。

事例があれば、それをもとに売り込みができる。

障がい者雇用に対して**ネガティブなイメージ**を持たれているので、働く姿を知ってもらう必要がある。



岐阜市
超短時間ワーク
応援センター

事例を増やす



川崎市
障害者雇用・
就労推進課

事業主を口説くには、**人と人とのつながり**が必要

雇用の可能性の高い、福祉関連の事業主に的を絞っている。今後は福祉関連以外の事業主にも広めていきたいが、**ツテもなく表層的な周知にとどまってしまう**。



岐阜市
超短時間ワーク
応援センター

多様な職種を繋ぐサポートが必要

8.超短時間雇用を軸とした施策案

事例づくり

提案

①

単発雇用で事例増

イベントでの単発雇用で企業が超短時間雇用を体験。
企業の障がい者へのネガティブイメージ払拭と説得材料を蓄積。

提案

②

企業開拓チーム編成

開拓には人脈が必須で、今は集中的に直接営業を行うべき時期。
応援センターと企業を繋ぐため、民間の力を借りたチームを編成。

+

障がい者以外
への拡大

提案

③

誰でも超短時間労働を可能に

超短時間に切り分けた仕事を障がい者以外にも提供。
市が職業紹介（斡旋）に参入することで門戸を広げる。
令和7年開設予定のワンストップサービスの機能の一つとする。

単発雇用 = イベントの設営など「**1日だけ**」の仕事

<川崎市における超短時間雇用の就業者数と単発雇用の件数>

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	合計
就業者数	15	14	29	30	22	44	154
そのうち単発雇用	-	-	3	12	10	13	38



川崎市

- ・手間が少なく超短時間に取り組むハードルが下がる。
- ・体験することで企業はメリットを実感。
- ・単発雇用から実店舗での雇用に繋がる可能性も。

提案 ① 単発雇用で事例増

市内のマルシェ形式のイベントを一つの例として考えてみる

柳ヶ瀬商店街で開催される サンデービルディングマーケット（サンビル）



- ・ 月2回の定期開催
- ・ 出店者の多くはリピーター
- ・ アーケードのため天候に左右されない



- ・ 同じ店舗で複数回続けられる
- ・ 実店舗等通常業務での雇用につながる
- ・ 出店者のつながりで広がる
- ・ 広報することで周知効果がある



(出典) 第3日曜日 サンデービルディングマーケット
【岐阜・柳ヶ瀬】 SUNDAY BUILDING MARKET
<http://ysbmkt.com/3rd-sbm/>

提案 ① 単発雇用で事例増

サンビル・通常業務ともに超短時間雇用の**需要あり**

アンケート対象：サンビル出店経験者 77店舗

・サンビル業務

人手がほしい		
はい	15人	19.5%
いいえ	62人	80.5%

超短時間で雇用したい <small>(人手が欲しいと回答したうち)</small>		
はい	8人	53.3%
いいえ	7人	46.7%

・通常業務 (店舗の市内外不明)

人手がほしい		
はい	9人	11.7%
いいえ	68人	88.3%

超短時間が会社に合う		
はい	23人	29.9%
いいえ	54人	70.1%

<参考> 柳商連加盟店舗アンケート (対象：6店舗+柳商連事務局)
⇒ 「超短時間が職場になじむか」の問いに「はい」が**3店舗**

提案 ② 企業開拓チーム編成



川崎市

初めは、事業主への個別対応と、受け入れてもらえる関係性が必要。

応援センターの、福祉以外へのアプローチは表層的

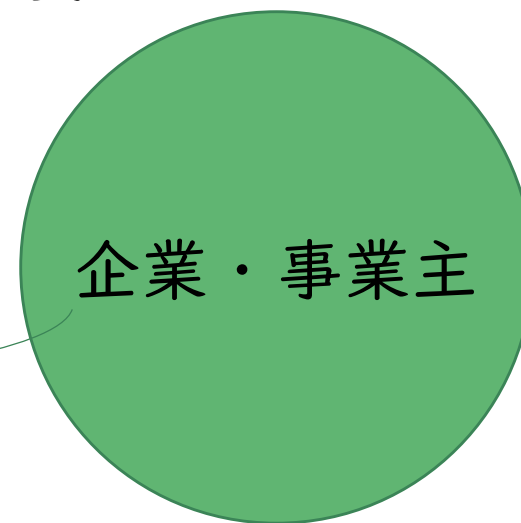
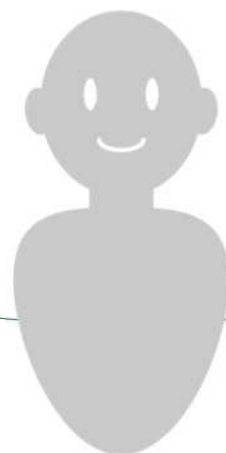


応援センターが受け入れられるよう
間を取り持つ**仲介役が必要**



岐阜市

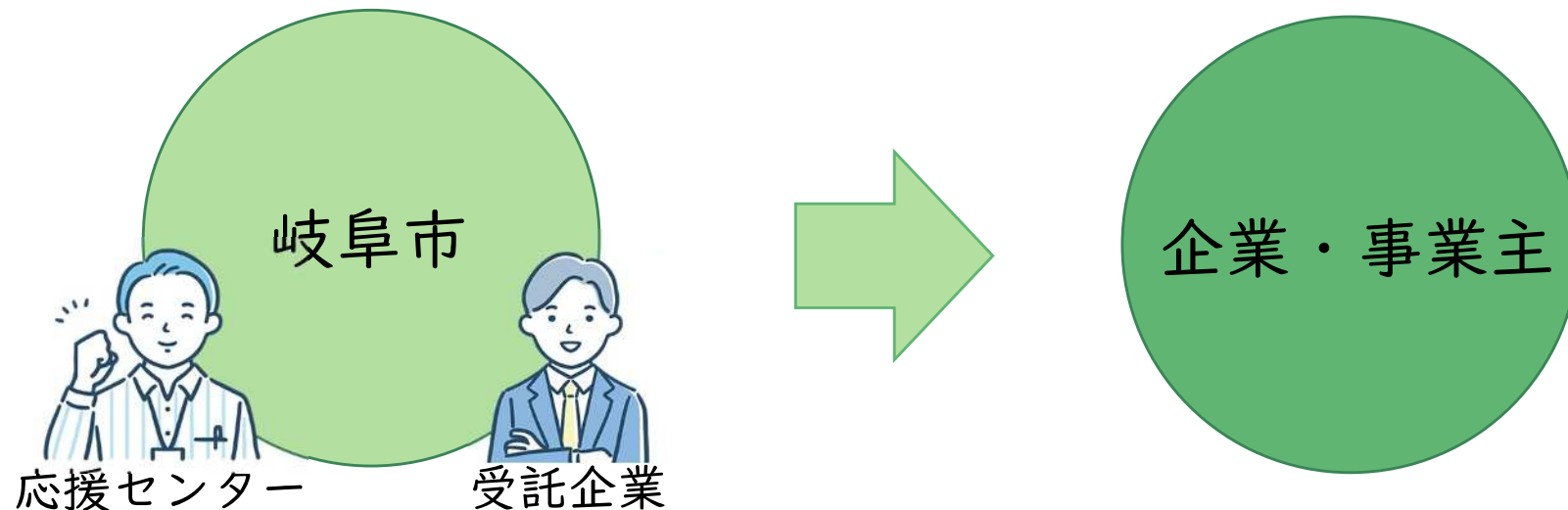
応援センター



企業・事業主

民間企業へコンサルタント業務として委託

受託企業 + 応援センター + 市職員で
チームを編成して事業主に対して営業



事例増の好循環を生むまでの初期段階を強力にサポート

提案 ③ 誰でも超短時間労働を可能に

岐阜市が職業紹介事業に参入すると、



応援センターの
ノウハウを活かす



超短時間の仕事を
働きづらさを抱える全ての人々に斡旋できる

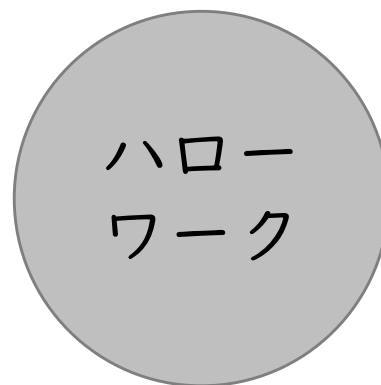


誰でも超短時間労働が可能に！

提案 ③ 誰でも超短時間労働を可能に

現状の課題

- ・ 超短時間の求人は障がい者のみ応募可能
- ・ 障がい者以外は、切り出した仕事を知るすべが無い



求職者

障がい者以外は
超短時間で働けない...

仕事を切り出しても
人が見つからない



事業主



応援センター

仕事の切り出しや
障がい者のサポートだけ
でなく、ハローワークへ
求人を出す支援も必要に

提案 ③ 誰でも超短時間労働を可能に

岐阜市が
職業紹介できれば...

- ・ 超短時間雇用に特化した紹介可能
- ・ 障がい者以外へも対象拡大

岐阜市



求職者

自分に合った仕事が見つかった！！

切り出した仕事が無駄にならない



事業主

仕事の切り出しや
企業開拓に時間をさける



応援センター

提案 ③ 誰でも超短時間労働を可能に

令和7年度開設を見込むワークダイバーシティ推進に向けた岐阜市の ワンストップサービス

同一機関による雇用契約までのサポートを実現するために、
職業紹介機能は重要

事業主と求職者、双方の
利便性と安心感が高まる



9.実践スケジュール

多様な働き方が広まる

令和7年度

- ・全求職者（超短時間）の職業紹介開始
- ・WDワンストップ開設

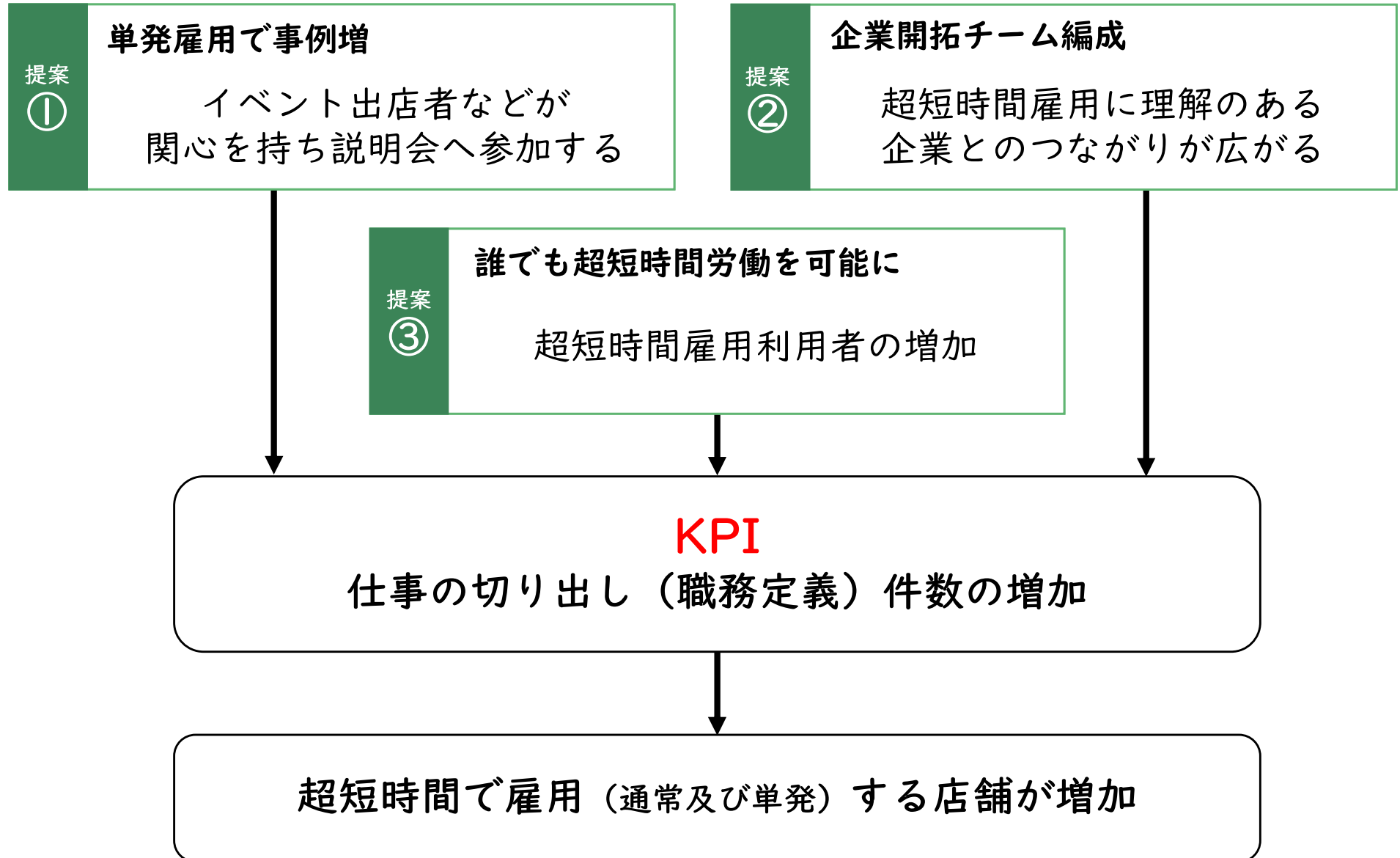
障がい者以外
への拡大

令和5・6年度

- ・単発事例増（サンビルなど）
- ・企業開拓コンサル委託

事例づくり

10. 各提案の効果：KPI評価の考察





全ての人に居場所と出番がある社会へ

働きづらさを抱える人々が“気兼ねなく”働ける

多様な働き方が広まる

New Job

New Job

ワンストップサービスを生かし
新しい働き方を働きづらさを抱える全ての人々へ

③誰でも超短時間労働を可能に

New Job

New Job

New Job

New Job

次の事例増
に繋がる



事例づくりで超短時間雇用の土壌を育む

ポジティブイメージ
企業の理解

①単発雇用で事例増

- ・柳ヶ瀬
- ・サンビル など



応援センター

②企業開拓チーム編成



民間企業